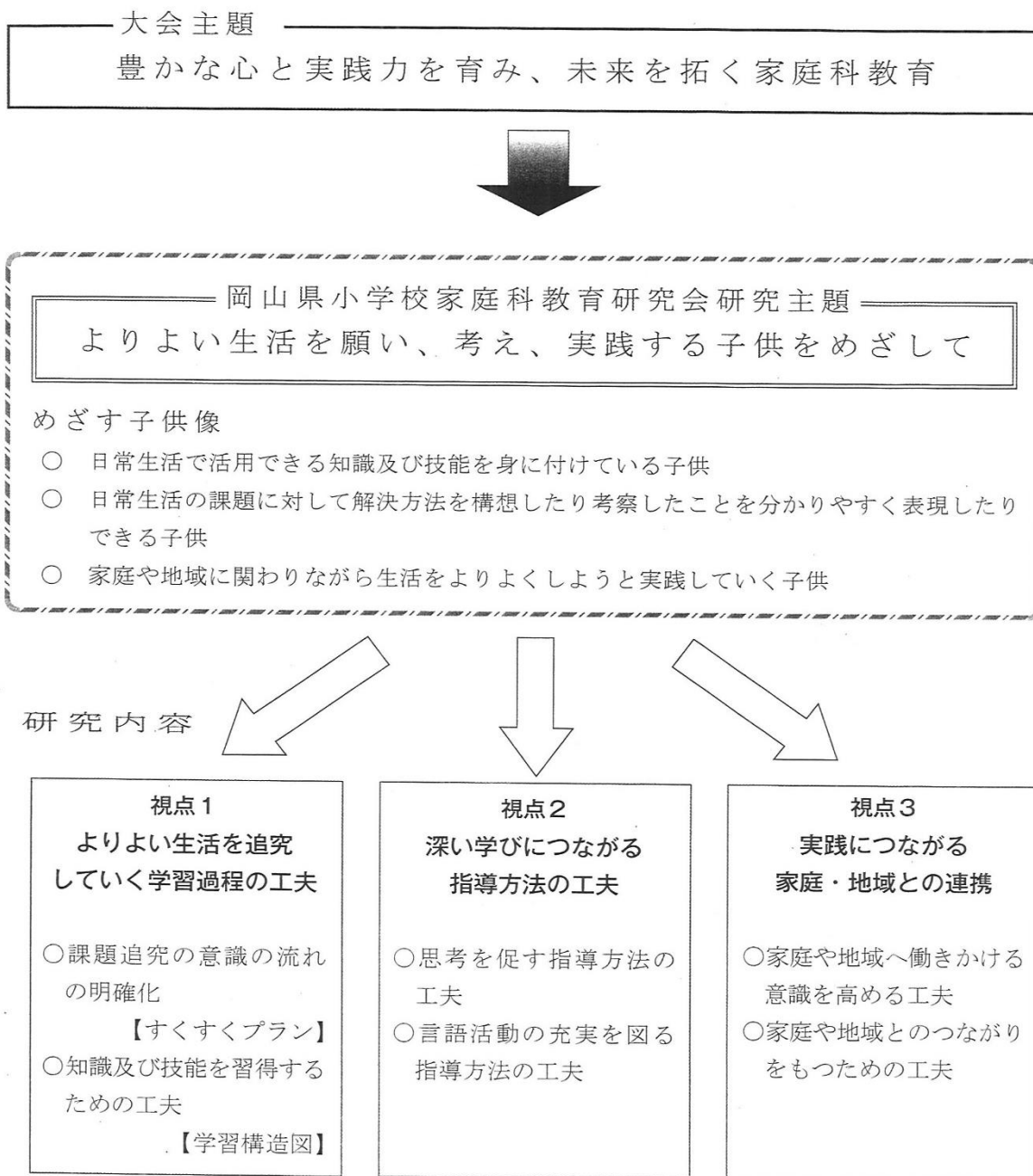


2 第55回 全国小学校家庭科教育研究会全国大会（岡山大会）参加報告

(1) 研究全体構想



(2) 公開授業及び分科会

牧石小学校は、「主体的な学びを生み出す授業づくり」を研究テーマとし、「晴れの国岡山すくすくプラン」に基づいた学習構想図を題材ごとに作成し、課題追究の意識の流れを明確にして研究を進めていた。食に関する学習を生活科や総合的な学習とも関連させ、第1学年から第6学年までの実践を積み重ねていた。また、地域との関わりが深い学校の特徴を生かして、地域食材を活用した食育をしっかりと行い、家庭科の授業へとつなげていた。家庭科では、子どもたちが実践的・体験的な活動を通して主体的に学べるように、教材を工夫していた。

(3) 地区研究発表

地区研究発表では、新学習指導要領A～Cのすべての内容についての発表を聞くことができた。それぞれの発表の参考となる点は次の通りである。

青森県 [新C]	「きづく できる つなぐ 家庭科学習」 ・題材構成の工夫：C(1)(2)とA(3)B(5)の関連など ・学び合いを充実させる話し合い活動を取り入れた学習過程の工夫 ・自分の成長や学びのつながりを実感できる評価の工夫 ・家庭や地域への発信の工夫
奈良県 [新A]	「学びを生かし家庭生活をよりよくしようと工夫する児童の育成」 ・カリキュラムマネジメント：他教科等との連携、第1学年から第4学年までの学習との関連 ・A(4)「家庭生活についての課題と実践」に関する題材開発 ・家庭や地域との連携：きらっとショット（家庭生活をよりよいものにするために頑張っている児童の写真と保護者のコメント）、学校地域パートナーシップ事業
長野県 [新B衣]	「共にひらく家庭科の学習」 ・小中5学年間を見通した題材配列の工夫 ・問題解決的な学習のプロセス ・ペアやグループでの共同追究 ・自分の成長を自覚できる評価の工夫（リーフレット型の学習カード）
石川県 [新B住]	「主体的に学び、共に高め合う子の育成」 ・他教科等との関連を図った指導計画の工夫 ・題材構想図や学習過程の工夫 ・ICTの効果的な活用、少人数指導、学習形態の工夫 ・思考の過程を把握するワークシートの工夫 ・家庭・地域での実践と発進の工夫
宮崎県 [新B食]	「学びの中からつながりを見出し、将来を見通す実践力をはぐくむ家庭科教育」 ・題材構成の工夫：見通しや振り返り、対話的な活動の場 ・題材構想図：既習内容、中学校の内容との関連 ・科学的な理解を促す実践的・体験的な活動の工夫

(4) 全体指導

文部科学省初等中等教育局教育課程課、筒井恭子教科調査官から、全体指導が行われた。新学習指導要領の全面実施に向けて取り組んで行くべき事柄として次の5点が挙げられた。

- ・2学年間を見通した指導計画の作成（ガイダンスで「生活の営みに係る見方・考え方」に触れる）
- ・育成する資質・能力の明確化（小・中学校の系統性の確認）
- ・新設の内容等についての教材開発
- ・資質・能力の育成に向けた授業づくり（学びの過程を重視する）
- ・家庭・地域との連携